

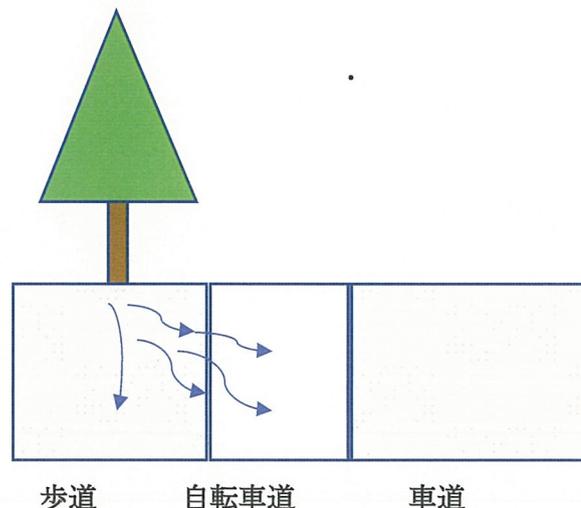
## ① 1期2期区間の街路樹・イチョウについて

1期の整備方法 → 大イチョウを残す工事方法 → **道路の安全を考えた画期的構造**

1期工事では、街路樹はそのまま触らず、自転車道の下を掘り、土を入れ替え、舗装しました。

街路樹の根が自転車道の下に伸びていく構造で、樹木を将来も健全、安全に保ち、今ある大木を道路環境改善に利用していただけます。画期的な設計だそうです。

2期以降もこれが採用されれば、イチョウはより健全になり、道路の安全が確保され、望ましいと思います。



2期区間はどうか → 32本のイチョウの街路樹

→ **全て健全です**。2020年6月の「街路樹診断」によると、1本も不健康な木（C判定）はありません。

→ **老木ではありません**。イチョウの寿命は数百年とも数千年ともいわれます。数十年しか経っていないこれらイチョウは決して老木ではありません。従って樹齢が原因で倒木するなど考えられません。ちなみに、倒木の原因はほとんど管理の不備からきます。激化する台風に、しっかりと管理することが大事で、樹種を変えても同じです。また新しい木に変えれば、根が活着するまで倒木の危険は増します。

イチョウの優れた点 → **防災機能が高い**

イチョウは幹外側の材が厚く、燃えにくい「火除けの木」と言われ、神社などに多いのです。1923年の関東大震災では多くの住民が火災で亡くなったため、震災復興では新しい道路にイチョウが植まりました。神田警察通りもその一つです。

イチョウは根を真下に伸ばすので、杭を打ち込むように倒れにくいのです。

防災を考えた時、大木のイチョウは神田の人命を救います。大事にすべきです。

イチョウの苦情に対して → **アダプト制度で解決を**

「ギンナンが落ちて臭い」「落ち葉ですべる」「排水溝が詰まる」などの苦情に対し、落ち葉などの管理は、アダプト制度で「守る会」が区と協力して行い、街路樹を守り育てていきたいと思っています。

剪定などについても、専門家の意見を聴きながら、区と住民が協力し「皆が使う道路を皆で守り育てる」という先進モデルにしていきたいです。